

<基本情報>

所在地：福岡県嘉穂郡桂川町

<農場概要>

- 12.5ha（有機JAS認証未取得）
- 有機農法により水稻、各種野菜等を生産
- 労働力8名（古野氏の家族7名、研修生1名）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 学生時代に有吉佐和子著「複合汚染」を読み影響を受け、雑草防除と地力維持に関心を持ち、完全無農薬の有機農業を目指すことにした。有機農業は環境に優しく、健康によい。家族が食べるために作ることが最大の目的であり、同じものを消費者に届けている。

<販売について>

- 基本的に近隣の消費者へ年間契約の直接販売が多いが、そのほかにインターネット販売等も行っている。
- 農業は成長するとともに、維持することが大事であると考えることから、変化に応じて様々なことに対応しながら、地元の人々に直接販売することを続けて行きたい。



【お問合せ先】TEL.0948-65-2018

ホームページ<http://aigamokazoku.com/index.html>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害、除草対策
水稻については、1988年から開始した「合鴨農法」の体系化を実施することにより、害虫の駆除と除草を行っている。
野菜栽培については、水田輪作による防虫、耐病性の強い品種の作付け、高畝栽培、排水対策を実施することにより病虫害対策を行っている。また、独自に開発した除草農機具（ホウキング）を使用し除草することで、除草時間の大幅な削減を実現している。
- 土づくり
自家製の堆肥（粃殻、鶏ふん、牛ふんを堆肥舎でかくはん・発酵）を使用することで土づくりを行っている。（野菜畑については、10a当たり5tを投入）
このことにより、**慣行栽培と同程度の収量を確保**している。

<苦労しているところ>

- 有機農産物の消費者等への周知。

<今後の対応>

- 地域の農業を引継ぐ者が少なく、農地の管理委託が増え、今後、自分の経営面積は増えると予想されるが、できる限り家族で有機農業を維持していきたい。

<現場の課題>

- 担い手や労働力の確保と地域の活性化。

<その他>

- 有機農法講座を実施しており、昨年は約30名の受講者があった。また、有機農業を志す研修生（1～2名）を毎年受入。

<基本情報>

所在地：福岡県田川郡赤村

<農場概要>

- 2.5ha（**全て有機 J A S 認証**）
- 水稻、トマト、ミニトマト、セルリー等を生産
生産したトマトを原料に加工品を製造・販売



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 人間・環境に優しい農業の創造とこのような農業を広く社会にアピールし、農業の社会的役割や農業者の社会的地位の向上に貢献すること、地域の生産の核となり地域再生・地域雇用を生み出し地域のモデルとなることを目的として有機栽培を開始。

<販売について>

- 販売する全商品が有機 J A S 認証品。生産したトマトを使用し加工品（ケチャップ等）を製造・販売も行っている。
- 有機 J A S の小分業者認証を受け、販売先からの要望に沿った形態で自社包装対応を行い、好評を得ている。
- 販売先はグリーンコープを中心に、イオングループ等約20社と直接取引（販売先への品数・ロットについては、連携を組む生産法人からの仕入れにより確保している）。
- 有機セルリーは、大手スーパーから直接取引のオファーが入るまでになっている。
- 経営管理ソフトを導入し、生産コスト等を管理することで、販売先との価格交渉を実施している。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
病虫害の対策としては、有機農産物にも使用可能な B T 剤、土壌改良剤、天敵を使用。
- 雑草対策
施設内ではマルチシート、土壌消毒時に土壌改良剤を合わせて使用することにより雑草の生育を抑止。
- 土づくり
牛糞の使用割合を押さえた堆肥（牛糞 2：草 8）を使用して土作り。5年程度で病気の減少と**慣行栽培と同程度の収量達成**。

<苦労しているところ>

- 資材費、運送経費等の抑制。

<現場の課題>

- 資材・人件費等の物流経費高騰への対応。
- 地域の耕作放棄地増加等の荒廃農地対策。

<今後の対応>

- 生産技術体系を確立し、安定的な生産を確立するとともに、次世代へ引き継げる経営の確立。
- 生産規模を拡大し、収益の向上を目指す。（県単事業を活用しハウスを増設予定）

【お問合せ先】TEL.0947-62-3349

会社ホームページ<https://www.torigoe-network.com/>

<基本情報>

所在地：福岡県豊前市八屋505-2

<農場概要>

- ベビーリーフ80a、全て有機農業の取組

<経営理念>

「未来にあたらしい種をまく！」



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 食の安全・安心は重要であり、消費者の方により良い国産農産物を提供したいという思いとともに、当初から栽培水準を高く持つことにより、付加価値と収益性の両立を図ることを目的として開始。



2020年 有機JAS認証取得を目指す！

<販売について>

- 当初から、業務提携先でもあり、有機栽培を実践している(株)果実堂（熊本市）のノウハウを受け、ハウス栽培全て有機栽培を行っている。
- 日照や散水のデータ管理を基に、年間12サイクルで生産することにより収量を確保している。
- (株)果実堂を通じてスーパー等へ販売している。

【お問合せ先】TEL.0979-33-7885

会社ホームページ <https://fyagri.jp/>

<病害虫対策・除草対策>

- 病害虫対策
ハウスの外側には防虫シート、防虫ネットにより対策を施しているほか、病害虫が発生しそうな近隣の土地の草刈りを行うなどの対策を行っている。
- 雑草対策
水管理の徹底が重要であり、どのタイミングでどのくらいの水分量が雑草の生育を抑えられるのか、土壌分析を行いデータ化し灌水マニュアルを作成している。

<苦労しているところ>

畦畔などの雑草の管理 有機資材の選定

<今後の対応>

- 現在20棟のハウスを、将来的には200棟まで増設する計画。併せて集出荷貯蔵施設の整備を計画中。



<基本情報>

所在地：福岡県宗像市

<農場概要>

- 有機 J A S 認証ほ場90a（いちご「あまおう」）
- 従業員：6名（うち夫婦、通年雇用1名、期間雇用3名）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 2010年に就農した当初は、いちごの慣行栽培に取り組んでいたが、土壌分析を行った際にリン酸値が高かったため、これを機に化学肥料を減らして栽培することを突き詰めた結果、5年前に有機栽培へ移行。
- **令和2年（2020年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- ネット販売を中心に、空港、駅、百貨店及び近所の道の駅で販売。
- 中国の貿易会社を運営していた経験を活かし、可能な限り中間事業者を省き、直接現地（アジア圏）の業者と取引を行うことで、通常、朝収穫したものが現地の百貨店に届くまで3日を要するところ、翌日には届くことが強み。
- 宗像市のふるさと納税返礼品として登録。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
土着天敵（ギフアブラバチ等）、土着菌（放線菌等）により生態系バランスを保ち、害虫や病気が増えにくい状態を作る。
- 土づくり及び雑草対策
森林に囲まれた腐葉土による土着菌が自然と増える環境を活用し菌を増殖。毎年5月の収穫後にいちごの茎葉と雑草と一緒に緑肥としてすき込み、米ぬかを投入し、ぼかし肥料として使用。



<苦労している（した）ところ>

- 蛾（ヨトウムシ）の幼虫をピンセットで捕ること。
- 「あまおう」の有機栽培は、殆ど前例が無かったため誰にも教わることが出来ず、試行錯誤し手探りで、有機栽培を確立した。

<今後の展開>

- 輸出はアジア圏に限っているため、アジアの枠を超えて世界各国への輸出拡大を図りたい。

【お問合せ先】TEL. 090-9653-5300

ホームページ： <https://isefields.work/index/>

<基本情報>

所在地：福岡県糸島市

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場11ha（水稻、かんしょ、きくいも、しょうが、エディブルフラワー）
- 従業員：10名（代表含む社員、パート）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 10年近く前、先代の代表が体調を崩したことを機に健康に良い食べ物を自らが作りたいとの思いで、本業とは別に有機栽培にて農業を開始。その後、農業生産法人を設立。
認証取得費用がかかるため有機JAS認証取得せずに有機栽培を行っていたが、法人化後、費用の目処がついたことで、**平成30年（2018年）に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 県内の小売店、飲食店、JA直売所を中心に販売。
一部、消費者への直接販売やネットショップによる販売。
- ほとんどが県内流通のため、配送は基本的に自社の車を使用。

<農福連携について>

- 市内の障がい者福祉施設と連携し、障がいのある方に、農作業に従事いただく農福連携に取り組んでいる。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
土壌の栄養バランスが良くなるよう健全な土づくりを行うことにより、病虫害被害に遭わない強い農作物に育つことを大切にしている。
- 雑草対策
草刈り機及び手作業による除草。
- 土づくり
植物残渣（おからやお茶がら等）や有機JAS規格で使用が認められた肥料及び土壌改良資材を施用。



<苦労しているところ>

- 病虫害被害が発生した場合、即効性のある化学合成農薬の散布が出来ないため、収量がかなり減少する年がある。



<今後の展開>

- 水はけが悪いほ場があり、収量がなかなか安定しないため、排水対策や土づくりに努め、収量を安定させたい。
また、現在、栽培している作物を原料とした加工品の販売に取り組みたい。



【お問合せ先】TEL. 092-329-0021

ホームページ：https://www.smilefarm.co.jp/

<基本情報>

所在地：佐賀県みやき町

<農場概要>

- 施設栽培：施設32棟 約1 ha 葉物野菜18品目(ほうれん草、小松菜等)
- 露地栽培：15 a 葉物野菜4品目(夏場のみ)
- 従業員9名(臨時雇用を含む。)



<有機農業に取り組むきっかけ>

- サラリーマン時代に長時間労働等により体調不良となった際に、食の大切さを痛感。有機農業に取り組もうと決意し、奈良県宇陀市の有機農家に飛び込み栽培技術を習得。

- **平成22年(2010年)に有機JAS認証を取得**

<販売について>

- 販売する野菜全てが有機JAS認証品。うち、約2割強を輸出。
- 一つのハウスの中で多品目を混作・ローテーション ⇒ 周年で品数を確保 ⇒ 付加価値を高め定額販売 ⇒ 安定収入を確保。



【一つのハウス内で多品目栽培】



- 1パックに5種類のオーガニック野菜を入れたオリジナル商品等を販売し販路拡大。「複数のオーガニック野菜をそれぞれ買うのは大変」といった消費者ニーズを反映。
- 平成23年に**Amazonの野菜セット部門でベストセラー商品ランキング第1位**を獲得。

【お問合せ先】TEL.0942-89-1559

会社ホームページ <http://www.saganvege.com>

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- **病害虫対策**：防虫テープを使用しているだけで、有機JASで認められた農薬も使用していない。
- **雑草対策**：は種前に2週間程度シートを被せ、土壌を高温殺菌。ハウス外の雑草対策で、羊を2頭飼養。
- **土づくり**：有機肥料は、**植物性由来のみ**を使用し、おから、米ぬか、油粕、粕殻などを原料とする自家製のものを使用。



【防虫テープ】



【植物性由来有機肥料】

<現場の課題>

- 近隣が水田地帯であるため、ドリフトによる農薬の影響を受けないように緩衝地帯を設けている。
- 規模拡大に当たって土地の確保が難しい。

<今後の展望>

- GFPに登録し、更なる輸出拡大を図ることにより、総販売額に占める輸出割合5割を目標に取り組む。
- 将来的に条件が整えば、気象条件等を考慮し、安定生産のため中山間地における栽培も視野に入れている。



<基本情報>

所在地：佐賀県唐津市浜玉町

<農場概要>

- 有機 J A S 認証ほ場約1.6ha（自然薯、ごぼう、ゴーヤ、さといも）
- 従業員：3名（本人、通年雇用2名。繁忙期は別途3名程度期間雇用）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 生き方を見つめ直そうと海外を旅した際、インドネシアの島で高潮被害を目の当たりにした。
現地の方から地球温暖化の影響によるものだと知らされたことから、実家の田畑で環境に優しい農業を始める覚悟を決め、2002年に減農薬農業に取り組んでいた祖父に弟子入り。
就農から5年程度は、化学農薬・化学肥料の使用を抑えた栽培を行い、その後、化学農薬・化学肥料不使用栽培を開始。

- **平成24年（2012年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 販売先はミシュラン掲載店を中心に東京、京都のホテルや飲食店、百貨店、高級スーパー。

（納品先のミシュランの星の数の合計は100を超えてきました！）

1割は、ネットでの直接販売。

<首脳夕食会への食材提供>

- 2019年G20大阪サミットの首脳夕食会の食材として、当園の「自然薯」、「太閤ごぼう※」が選ばれた。
※「唐津太閤ごぼう」で商標登録済（佐賀県唐津市で生産されるごぼう）



<土づくり>

〔適地適菜〕 ささき農園の自然薯畑は天然の自然薯が自生している山を切り開き畑にしています。この山の豊かな自然を壊さないように土づくりには3年の月日をかけ草を育て、1年目、2年目と違う種類の草が育ちその土地が育てた、その土地が必要とする草をすき込むことで地力のバランスを整えていきます。

<病害虫対策・除草対策>

マルチを利用することでアブラムシやスリップス類などの害虫や病気の発生を抑制するとともに、雑草防除も行っている。

作物の前作に辛子菜を栽培し、全量鋤き込み、土壌炭素率を上げ微生物の活動を促すと共に、辛子菜の辛味成分による殺菌作用を利用し土壌病害や線虫を抑制。

<苦労したところ>

就農時から主力商品として考えていた自然薯の有機栽培を始めてから7年近くは、保存中や定植後の腐敗が発生した。それを克服し栽培方法を確立することに苦労した。

<今後の展開>

取引先には、ミシュランの星を得ている飲食店も多く、星の数の合計は100を超える。今後とも、このような評価が高い飲食店との取引を増やし、星の数200超えを目指す。



【お問合せ先】 Tel. 090-5293-2502

ホームページ：sasakinouen831.com/

有機農業の取組 No.12 農業生産法人 吾妻旬菜株式会社 令和元年10月現在

<基本情報>

所在地：長崎県雲仙市

<農場概要>

- 全て有機 J A S 認証ほ場 13ha（露地野菜）
- 地元の運送会社と連携し、冷蔵トラックで輸送。
高い鮮度を維持して有利販売。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 30年ほど前に3名で無農薬栽培を始め、徐々に仲間が増えていき、有機農業研究会を発足。その後、更なる飛躍を目指すために、平成19年に「吾妻旬菜株式会社」として法人化。
- **平成13年（2001年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 販売先は法人化前から取引がある関西方面がほとんど。
- 地元の運送会社の冷蔵トラックで搬送することで、翌日には消費地に到着し、**高い鮮度を維持した状態で有利に販売**することが可能。
- 根菜類をある程度のロットをまとめて送ることで、運送経費を削減。

<収量・品質について>

- 手間をかけても慣行栽培に比べ7～8割程度。
- 作物の生育に最も適した生育環境を作りあげる工夫をして、品質の向上を図っている。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
周辺の雑草管理、高畝による排水対策、株間を広くし風通しを良くする、などにより病害虫の発生を抑制。
- 雑草対策
太陽熱を利用した土壌消毒、管理機による除草、黒マルチによる雑草対策を実施。
- 土づくり
地元ブロイラー飼養農家から出る鶏糞に米ぬかを混ぜた堆肥の投入。豆科植物やソルゴーなどの緑肥の導入。

<苦労しているところ>

- 労働力の不足。
- 近隣ほ場でのヘリ防除からのドリフト対策。

<現場の課題>

- 輸送費が高騰することへの対応。

<今後の対応>

- 地元での販売先の確保、消費者との交流。
- 地元住民への有機農業の理解促進。



【お問合せ先】TEL.0957-38-6710

会社ホームページ <https://www.azumashunsai.com/about.html>

<基本情報>

所在地：長崎県南島原市

<農場概要>

- 有機 J A S 認証ほ場 約 6 ha（露地野菜）
- 露地野菜・米・柑橘等を自社農場と合わせて、正会員48名・協力会員 6 名による有機農業・特別栽培での生産、産地直送販売。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 消費者の安全・安心な食生活の実現、生産者自身の健康、自然を大切に、農薬及び化学肥料の使用を極力減らすことを目的とした研究会を設立。その後、直販による販売活動を開始し、平成3年（1991年）に(株)長有研を設立。
- **平成13年（2001年）に有機 J A S 認証及びAFASシステム認証取得。**

<販売について>

- 関東を中心に生協、有機農産物専門流通業者、自然食品店、消費者グループ等へ出荷。多様な出荷先の確保により経営面でのリスクを分散。
- 全取扱量の約 9 割が取引先との契約栽培で、その年の気象や生産コストと収量の実情を常に情報交換を行い、相場の影響を受けにくい。

<収量・品質について>

- 化成肥料が投入出来ないため、全体的な収量は慣行栽培の 7 割程度。
- 会員間での栽培技術の統一、販売先のニーズに合った多様な品目、数量の確保が可能。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
たまねぎの苗床は、事前に太陽熱を利用した土壌消毒を実施。
- 雑草対策
ほ場周辺の除草はチップソーがメインであるが、イノシシ対策用のワイヤーメッシュ周辺は手作業。
- 土づくり
若手が中心となって作成した、独自の設計書によるぼかし肥料（外注）を施用し、土壌分析・診断と組み合わせた適正施肥を実施。

<苦労しているところ>

- 労働力の不足。
トラックドライバー不足による輸送費、資材等の経費の高騰。

<現場の課題>

- 除草対策が一番の課題。
人手不足・高齢化で規模拡大も難しい。

<今後の対応>

- 新規就農や若手農業者への有機農業の啓蒙による会員拡大。
一人一品目を有機 J A S 認証ほ場で栽培することを目指す。



【お問合せ先】TEL. 0957-86-5041

会社ホームページ <http://choyuken.jp/index.html>

有機農業の取組 No.15 農事組合法人供給センター長崎 令和元年10月現在

<基本情報>

所在地：長崎県南島原市

<農場概要>

- 有機 J A S 認証ほ場 約80a (たまねぎ)
- 露地野菜・米等の会員37名による有機農業・特別栽培での生産、産地直送販売。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 前身の任意組合を設立した昭和50年代から化学肥料、化学合成農薬に頼らない農業を実践。平成5年(1993年)農事組合法人供給センター長崎を設立。
- **平成22年(2010年)に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 九州・近畿・関東方面を中心に生協への出荷が約7割を占める。
- 会員間での栽培技術を統一し、販売先のニーズに合った多様な品目の導入、数量の確保が可能。
- 契約栽培により再生産可能な価格設定、通いコンテナの利用等によるコスト削減も行っている。

<収量・品質について>

- 有機栽培における長年の技術・経験を活かしながら、適性な品種選定を行い収量を向上。
- 使用する肥料を組織内で統一し、安定した品質の確保。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
たまねぎの苗床は、事前に太陽熱を利用した土壌消毒を実施。
- 雑草対策
手作業による除草。
- 土づくり
地域で発生する家畜糞尿等の資源を活用し、農家が堆肥を生産。春作収穫後、リゴー・カタリアなどの緑肥による土づくり。

<苦労しているところ>

- 会員(農家)はもちろん、集荷場での労働力の確保。
輸送費が高騰しているが、消費者の有機農業への理解も薄れ、価格への転嫁が難しい。

<現場の課題>

- 農薬のドリフト防止のための緩衝帯設置、除草作業、周辺農家への有機農業に対する理解促進。
輸送費高騰への対応、統一資材の一括購入によるコスト低減。

<今後の対応>

- 生き物調査、生物多様性を発揮した有機農業の啓発活動の実施。
販売先の開拓、高品質と輸送効率のためのロットの確保。



【お問合せ先】TEL. 0957-87-2926

会社ホームページ <http://www.jaganosato.jp/>

有機農業の取組 No.16 農事組合法人ながさき南部生産組合 令和元年10月現在

<基本情報>

所在地：長崎県南島原市

<農場概要>

- 有機 J A S 認証ほ場 3.2 h a (ばれいしょ、たまねぎ)、生産者 5 名
- 有機農業をはじめ、栽培期間中無農薬栽培、特別栽培レベルなど、消費者に信頼される、環境にも優しい栽培方法によってできた農産物を組合員139名で生産し、産地直送販売。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和50年（1975年）5名の青年農業者が産直を目指して発足。その後、長年に渡って続けられてきた近代農業をもう一度見直し、消費者に安全・安心な食べ物を供給するために、昭和62年（1987年）から県内の企業と協力して有機質成分の割合を高めてきた。
- **平成18年（2006年）に「有機農業推進法」が施行されたこともあり、同年、有機 J A S の認証を取得。**

<販売について>

- 全国の消費者グループや大手生協との取引が約7割を占める。契約栽培のため、価格変動が抑えられ、安定的な収益に繋がっている。
- 長崎県諫早市に直売所、福岡・鹿児島・長崎の生協36店舗にインショップを常設。

<収量や品質について>

- 収量は天候に左右されることが多い。
- 日々の作業記帳や作物ごとの栽培管理計画に基づく、徹底した品質管理を実践。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
品種の選定や作期の分散(有機以外では露地から施設へシフト)
- 雑草対策
人手・草刈り機による除草。
- 土づくり
土壌分析による適正施肥。
天然物質に由来する成分を用いた肥料、自家製堆肥の施用、緑肥作物の導入による土づくり。

<苦労しているところ>

- 労働力の不足。
- 近年、気象変動が激しく毎年異なるため、その対応が難しい。

<現場の課題>

- 運送料が高騰している。(価格へ転嫁できない)
- 作業記録の手間、有機用の作業スペースの確保、認証の費用負担が大きい。

<今後の対応>

- 新規就農者の確保とともに、青年農業者への有機農業の推進。



【お問合せ先】TEL.0957-84-3393

会社ホームページ <https://www.tentoumusi.net/>

有機農業の取組 No.18 株式会社アグリ・コーポレーション 令和4年3月現在

<基本情報>

所在地：長崎県五島市三井楽町

(令和2年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール生産局長賞受賞)

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場40ha(かんしょ、大麦、小麦)
- 有機JAS認証のかんしょを加工し、赤ちゃん用のおしゃぶり干し芋等を製造



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 大阪市でコンサルティング会社に勤務し、将来、農業コンサルティングに従事したいと考えていたところ、義理の祖父の出身地である当地で農地を取得したことにより10年前に営農開始。
当初は、農薬や化学肥料を低減した栽培に取り組んでいたが、土づくりや生物多様性保全の取組、他産地との差別化、加工品の付加価値向上などを考えて、**平成30年(2018年)に有機JAS認証取得を開始し、令和2年(2020年)には、全ほ場の有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- かんしょ(青果用及び加工用)は、全国の小売店、飲食店、生協、通販会社、大手コンビニ等へ販売。大麦、小麦は、卸業者に販売。
- 高付加価値化として、かんしょを、赤ちゃん用のおしゃぶり干し芋「おしゃぶー」や小型犬向けの「ワンちゃんのおやつ」、和洋菓子用原料として「かんしょペースト」に自社で製造・販売。

<輸出について>

- 商社と協業し、国内で取引需要が少ないかんしょの規格品(S~2S)を、オーガニック需要が高い香港を中心に輸出。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
自社製造の天然由来の液肥や環境にやさしいBT剤を散布することで、病害虫被害を抑えている。
- 雑草対策
かんしょと麦の輪作を実施。春まで麦を栽培することにより夏季の雑草抑制に繋がり、機械除草の回数を抑えている。
- 土づくり
BLOF理論(生態系調和型農業理論)に基づき3年に1度の土壌診断を行い、必要なミネラル等を施用。
肥料は、有機JAS認定の元肥を中心に、自社製造の肥料を使用。

<苦労しているところ>

- 人口減少により、耕作放棄地が増加。
これまで10haに及ぶ耕作放棄地を再生したが、再生作業以上に苦労したことは、農地の地力向上に時間を要すること。



<今後の展開>

- 五島市三井楽町は、20年間で3割以上人口が減少。
耕作放棄地の解消、移住者・市民が働きたい会社づくり等により地域に貢献し、「オーガニックをプラットフォームとした街づくり」を20年後のビジョンとしている。

【お問合せ先】TEL. 0959-84-2989

ホームページ: <http://osyaburi.jp/index.php>

<基本情報>

所在地：長崎県五島市吉久木町

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場17ha（茶16ha、レモングラス1ha）
- 有機JAS未取得ほ場12ha（牧草）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 10年前に台風による潮風害（塩害）に遭い、茶葉がひどく褐変し、茶園が枯れたようになった。
知人である有機農業者の助力により、複数の発酵乳酸菌をブレンドした有機土壌改良資材をほ場に投入したところ、翌年には、茶園が回復。これを機に有機栽培に転換し、**平成28年（2016年）に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 販売部門として平成13年に「有限会社グリーンティ五島」設立。
- 生産量の8割は、京都の茶商（海外向け取扱が主）へ販売。
- 生産量の2割は、ネット販売や島内のスーパー等小売店への直接販売。販売額の6割を直接販売が占める。
- 緑茶、紅茶のほか、自生するヤブツバキの葉と、緑茶をブレンドした「つばき茶」や「ハーブ（レモングラス）」を販売。



<収量等について>

- 有機栽培に取り組んだことにより、300kg/10aであった2番茶の収量が2倍近く獲れることもある。
- 有機栽培をはじめる前は、防除費に数百万円要していたが、現在は、10万円程度で済んでいる。

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
土づくりをしっかりと行うことで、作物が丈夫に生育するので、たまに食酢を散布している。



- 雑草対策
草刈り機及び手作業で除草。

- 土づくり
牛ふん堆肥及び豚ふん堆肥に発酵乳酸菌をブレンドし、茅を混ぜ込み、十分に発酵させ完熟した堆肥を10aに年3回（1t/回）程度散布している。



<苦労しているところ>

- 除草作業は、草刈り機及び手作業で行っているが、つる性の雑草は、なかなか根元から取れないところ。



<今後の展開>

- ネット販売等の直接販売の割合を増やしていきたい。
- 最近栽培を開始したレモングラスの他に、新たな作物栽培に挑戦したい。

【お問合せ先】 TEL. 0959-72-4426
ホームページ： <https://greentea-goto.com/>

<基本情報>

所在地：熊本県合志市

<農場概要>

- イタリア、フランス及び日本の季節野菜を自然農法で栽培。
- 経営面積2.7ha（うち水稲0.4ha、野菜2.3ha）
- レストランへの契約・自社農園の野菜を使った加工品の製造やインターネット販売も手がけている。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 農業大学の新規就農支援研修先で有機栽培の実践研修を受けた際、化学合成農薬・化学肥料不使用の農業に興味を持ち、就農後に実践。妻の亜衣さんは、野菜ソムリエ。

<契約・販売について>

- 生鮮野菜については、レストランへの契約販売や一般消費者へのインターネット販売。
- 加工所で製造した自家農産物の加工品（ドレッシング、ジャム、ピクルス等）については、主にインターネット販売。なお、平成30年7月にオープンした福岡市の直売店においても販売。
- 営業部長として、亜衣さんが新規販路開拓に取り組み、**年々、作付規模、販路を拡大。**本年3月からパート3名を雇用。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
線虫抑制効果のある緑肥を畑に播き、鋤込んでいる。
- 除草対策
初期生育段階において手押し中耕機による除草を実施。
- 土づくり
緑肥（エン麦）を畑に鋤込むほか、希に、鶏糞、牛糞、油かす、野菜くず等を混ぜて堆肥として利用。

<現状の課題>

- 生産から加工、販売において手作業の比率が高く、今後、作付規模及び販売量を増やすための労働力の確保と機械化が必要。

<今後の対応>

- 担い手としての支援を受けられるよう、合志市及び行政書士と相談しながら、今年中の経営法人化を目指している。
- 法人化後は、新規就農者を雇用して農業後継者の育成に努めるとともに、加工製造機械を導入して生産性の向上を図りたい。



【お問合せ先】TEL.096-242-7855 うさぎ農園（農場）

<基本情報>

所在地：熊本県上益城郡山都町

<農場概要>

- 生産農家6軒で会社を設立。（正社員2名、パート2名）
- 経営面積（4 ha）有機 J A S 認証取得（4 ha）：ベビーリーフ（ルッコラ、水菜、ターサイ、ビート、レタス類）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 高冷地であり、もともと減農薬栽培が盛んな地域であったが、取引先から有機農業が有利販売に繋がると進められたことによる。
- **平成19年（2007年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 通年出荷を基本とし、栽培計画を立て、季節に合わせて品種を選定し、幼葉ならではのおいしさを提供。
- 契約栽培でインターネット等を活用しながら販路の確保に努めている。
- 熊本市内を基本に、全国のホテル、レストラン、スーパーへ出荷。



【お問合せ先】TEL.0967-72-9494

メール fxkyd892@yahoo.co.jp

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
太陽熱利用による土壌消毒を実施。（湛水後、農業用ビニールで被覆し、ハウス内を密閉）
- 土づくり
土着菌（放線菌）に着目した堆肥を使用。メンバーの中には、山野草を利用し、1～2年発酵させたものを使用している。

<苦労しているところ>

- 過去にはコンテナ出荷を行っていたが、現在は販売先に応じた小分けパッキングを行うため、出荷経費・輸送コストが増加している。販路の確保も課題。

<今後の対応>

- 構成員の高齢化により後継者の確保が課題。組織を法人化(2017年)し、構成員の栽培から法人直営の栽培に切り替えていくことを想定。



<基本情報>

所在地：熊本県上益城郡山都町

<農場概要>

- 経営面積（4ha）うち有機 J A S 認証取得（3.2ha）
（にんじん、小カブ、ピーマン）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 東日本大震災のボランティア（炊きだし）で食べ物が手に入らない状況を経験し、自ら農産物を作りたいと思ったことがきっかけ。東京から有機農業が盛んな山都町へ移住。
- **平成26年（2014年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 生協との契約栽培が中心。関東、関西方面に出荷。
- 新規就農者同士の販路確保のため「ASO GAIRINZAN ORGANIC合同会社」を設立。（メンバー10名でリレー出荷することにより取引先との契約量を確保）
- メンバーで規格、品質等を統一するため、定期的に学習会を開催。



【お問合せ先】TEL.090-3547-1589

メール yaski525@gmail.com

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 雑草対策
人参は太陽熱養生処理（植付け前のマルチ被覆）により雑草を抑制。
- 土づくり
科学的分析により土壌状態を把握。状態にあわせた資材（馬糞、竹の粉、雑草等）の投入を行いながら土づくりを実践。

<苦労しているところ>

- 今では、経営が確立しているので、苦労はしていないが、新規就農当時は機械、設備への投資に苦労した。

<今後の対応>

- 個人経営の規模を拡大するよりは、規模の小さな家族経営が参画し、共同で営農を行いながら、出荷グループを発展させていきたい。



<基本情報>

所在地：熊本県宇城市

(平成28年度環境保全型農業推進コンクール 農林水産大臣賞受賞)

<農場概要>

- 経営面積 5 haで、水稻、野菜類（約30品目）を栽培（米、生姜、里芋、にんにく、露地野菜）



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和45年就農。当初は慣行栽培をしていたが、農薬の使用による身体面への負担を感じたこと。また、農薬の多投入や農産物の外観品質への評価に疑問を持ち始め、有機農業実践者に出会い昭和50年台始めから有機農業に取り組む。
- **平成13年（2001年）に有機JAS認証を取得**

<理念>

- いのち・くらし・環境を守る有機農業を推進し、子や孫、次世代につなぐ。

<販売について>

- 有機農産物と一目でわかるように、販売するすべての農産物に有機JAS、グリーン農業表示マーク（熊本県のグリーン農業制度）、自社ロゴマークを1枚のシールにして貼付し販売。
- JA系の直売所、くまもと有機の会（生産者主体の産直を行う組織）及び九州内の生協に出荷。



【お問合せ先】Tel.0964-43-0234

メール yuk_morita@kuc.biglobe.ne.jp

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
作物の輪作で病虫害の発生を極力少なくする体系づくり。
太陽熱養生処理で土壌の病虫害殺菌処理。
- 雑草対策
黒マルチや太陽熱養生処理で、除草の労働力軽減。
- 土づくり
排水性を良くするため、3～5年おきに客土、深耕、転地返しを実施。
肥料は、有機JASに対応したボカシを使用。

<現場の課題>

- イノシシやシカの被害の増大
以前から、金網や電気柵を設置しているが、整備が間に合わない。

<今後の対応>

- 更なる有機農業の普及を図り有機農産物の安全供給と面的広がりを目指すため、ネットワーク化、新規就農者の育成に取り組む。

- 地域の特産物である
「生姜」加工品の生産・販売を拡大する。



<基本情報>

所在地：熊本県上益城郡御船町

<農場概要> 75ha(水稲、にんじん、ばれいしょ、など約100品目)

うち有機 J A S 認証30ha(水稲、にんじん、ばれいしょなど)、構成員50名

<理念> 自然と共に生きる丁寧な暮らしを ひとり一人が実践し、「有機農業生産者、加工者、流通事業者消費者が共に支え合い、自分自身、家族、友人、知人に食べて欲しいものを作り販売すること」をテーマにし、熊本の「有機の基地」をめざして日々の活動に取り組んでまいります。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和51年に有機農業生産者と消費者を結ぶ専門機関「株式会社熊本有機農産流通センター」を設立。その後、有機農業を広く伝える目的で昭和60年に本会が発足。

<有機 J A S 認証に取り組むきっかけ>

顔の见えない消費者へのアピールには第三者が認定した有機 J A S 認証が不可欠のため取得。

<主な販売先>

消費者への直接販売（季節の野菜セット）
・生協



【お問合せ先】Tel.096-281-7355

HP <https://kumamotoyukinokai.jimdo.com/>

直売所：オーガニックはあと（熊本市東区湖東2-1-3）

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 圃場ごとに土壌分析及び生産物の栄養成分分析を実施し圃場にあった土づくりにより、健全な作物の栽培（セルロースの強化）ができ、病害虫耐性も強くなる。また、「太陽熱養生処理」により土壌物理性の改善（土壌の団粒化・水はけ改善）、秀品率の向上、生物性の改善による病原菌抑制及び雑草の種を熱等で死滅させることで**除草作業を殆どしなくてよくなる。**

人参の慣行栽培では単収3.5トン、圃場にあった土づくりを実施した場合、単収6トン程の収穫でき、栄養成分では糖度が向上し、硝酸（エグミ）が減少しおいしい農産物が出来る。

<苦労しているところ>

- 異常気象による影響。
- イノシシ・シカ等による鳥獣被害。

<今後の対応>

- 10年後を見据えて生産量確保にむけ、新規就農者・転換者に対して研修会の開催。

<基本情報>

所在地：熊本県宇城市不知火町

(令和2年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール生産局長賞受賞)

<農場概要>

- 16ha (うち有機JAS認証13ha トマト、ショウガ、柑橘等)
- 2015年に自社加工所を設立し、トマト、ショウガ、柑橘等の加工品を生産(加工所は、有機JAS加工食品の認定取得)



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 「農業は自然を守る産業であること」という信念のもと、有機栽培で自立できる農業を目指し、町内で有機農業に取り組んでいた澤村氏を中心に、2001年に柑橘農家4戸、野菜農家2戸の計6戸で設立。2003年に法人化。
- **平成10年(1998年)に有機JAS認証取得を開始し、現在、施設と露地の全ほ場にて有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 販売は、生協関係と量販店に約5割程度ずつ出荷。また、少量ではあるが、県内の直売所や自社オンラインショップでも販売。
- 都市圏へ空荷で帰るトラックに着目し、運送会社との提携により、帰り便を積極的に利用することで、効率的に出荷するとともに出荷コスト削減

<消費者への情報発信について>

- 年に1回、消費者等との交流を目的にほ場見学、農業体験ツアーを開催。
小売店と協力し、生産物に対するアンケートを実施し、消費者ニーズを把握。



【お問合せ先】TEL. 0964-33-7240

ホームページ: <http://higoayuminokai.co.jp/>

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
腐敗するような資材は投入せず、虫害発生が少ない時期に栽培。ハウス内は加湿状態としない等の環境負荷をかけない栽培を行うことで病害虫を抑制。また、タケノコや山菜等から抽出した天然エキスを使用する。
- 雑草対策
通路や畝の上にカヤやわらを敷くことにより、雑草発生を抑制。
- 土づくり
土壌バランスを重視し、野草堆肥及びボカシ肥料を施用。
野草堆肥は、2年程熟成。また、ボカシ肥料は米ぬかを中心に魚粉やカキ殻等加え、自社肥料製造施設で製造。
土壌分析に加え、野草堆肥とボカシ肥料の成分分析も毎年実施することで、土の状態を常に把握するよう努めている。

<苦労したところ>

- 有機栽培を始めた頃は、販路拡大のため積極的に売り込んだがうまくいかなかった。その後の品質向上により自然と販路が拡大した。

<今後の展開>

- 主作物のトマトは、4~6月出荷を主な作型とし、塩トマトが収穫できる海岸地域は、11~5月出荷としている。
近年、高原地域(阿蘇)で夏秋栽培開始し、周年出荷を目指す。



<基本情報>

所在地：熊本県上益城郡山都町

(令和3年度九州地域未来につながる持続可能な農業推進コンクール九州農政局長賞受賞)

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場3.7ha
(にんじん、ばれいしょ、にんにく、たまねぎ等)



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 有機農業を営む義父母から離農の相談を受けたことを機に、平成19年に就農を決意。
翌年、県立農大等で農業の基礎を学び、平成21年に有機農業2.1haを経営承継し、**同年(2009年)に有機JAS認証を取得**。現在、家族2名と従業員2名で多品目栽培に取り組んでいる。

<販売について>

- 平成23年(2011年)に、共同出荷によるコスト削減や安定的な出荷及び新たな販路確保を目指し、「山都町有機農産物出荷協議会」を代表として設立。
その後、平成28年(2016年)に山都町最大の有機農産物出荷プラットフォーム「(株)肥後やまと」(有機農業者48名で構成)の法人化に携わった。販売の一元化により、それぞれが実施していた荷造りや出荷作業を一か所に集約化したことで、労働時間の大幅な削減や流通コストの削減を実現。
また、出荷品目が増えたことが強みとなり、個人やレストラン等への新たな販売先の確保に繋がった。なお、生産量の約半分は、(株)肥後やまとを通して出荷しているが、残りは個人で出荷している。
- 山都町有機農産物のブランド化を図るため、共通デザインシールを導入し、積極的にPR。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
鳥獣被害軽減のため、休耕期間を設けないよう輪作体系を実施。
- 雑草対策
雑草防止対策は、従来の適期耕耘管理や中耕除草に加え、太陽熱養生処理、畝間マルチを実施。
- 土づくり
地域の畜産堆肥、米ぬか、籾殻、薫炭、落ち葉等をブレンドした自家調製のバイオ堆肥や緑肥を施用。
土壌分析結果に基づき、施肥設計ソフトを活用し、施肥を実施。

<ICT(情報通信技術)等の活用>

- 有機JAS認証ほ場の栽培計画、管理記録は、審査時にいつでも確認可能となるようクラウド上で管理。
- 農機具保管庫は、通信型の防犯カメラを設置。

<情報発信等について>

- 消費者とのコミュニケーションをとり、互いの顔が見える販売とするため、インターネット販売の全てに手紙を添えている。
- SNSを活用し、有機農業の日々の作業等を発信し、交流を深めている。



【お問合せ先】TEL. 080-5375-2480

フェイスブック: <https://ja-jp.facebook.com/koshi.nishiyama.5>

<基本情報>

所在地：熊本県山鹿市鹿本町

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場58a（イチゴ（うち育苗床13a））
- **平成29年（2017年）に有機JAS認証を取得**



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 大学卒業後、海外青年協力隊を経てJICAに就職し、支援活動を通して海外における有機農産物への意識の高さを実感。
また、子育てのコミュニティを通して、食の安全安心の大切さを強く意識するようになり、40歳で就農を決意。
海外生活では生のイチゴを食べる機会が無かった子供達の「イチゴが食べたい。」の一言でイチゴの有機栽培を目指す。

<販売について>

- 大手スーパー系列の有機農産物ショップを中心に、ネット販売や生協等へ販売。
なお、有機農産物ショップとは出荷時期を通して同じ単価で契約し、通常の販売と比べて高単価を実現。
- 令和3年（2021）から海外（アジア）へ輸出。
- 無添加ジャムやスパークリングワイン、冷凍イチゴなどの加工品開発により出荷ロスの削減と有機イチゴのPRを実施。



<消費者等への情報発信について>

- ホームページや「農産物直販サイト」を活用して、消費者との情報交換を実施。
- 有機農業を志す研修生を受け入れ、次世代の農業者を積極的に支援。



<病害虫対策・土づくりなど>

- 病害虫対策
捕殺に加え、防虫ネットや白マルチの反射利用による害虫の侵入抑制対策（物理的防除）、チリカブリダニやコレマンアブラバチなどの天敵導入及びBT剤やフェロモン剤利用（生物的防除）等を組み合わせ病害虫発生を抑制。
- 土づくり
阿蘇地域に自生するカヤ（野草）を敷き藁としてほ場の畝間に施用。
栽培終了後にすき込み、太陽熱養生処理を行い土壌構造を改善。
- 効率的な生産に適した品種への転換
果形が大粒で果皮が硬い品種「恋みのり」に転換したことで、パック詰めでの労力削減と輸送性が向上。



<経営の課題>

- 更なる収量の増加を目指し、栽培技術を向上。
- より簡易的な有機栽培方法の確立・体系化及び雇用者の確保。

<今後の展開>

- まだ認知度の低いイチゴ有機栽培を広め、栽培の裾野を広げていきたい。また、年齢・能力・性別を問わず多くの人が活躍できる農園を作ること、農業の魅力を広め、地域農業に貢献していきたい。

<基本情報>

所在地：大分県宇佐市

<農場概要>

- 野菜3.3ha、全て有機 J A S 認証を取得
- 「口にも体にもおいしい野菜が当たり前の世の中」を目指して年間約40品目の野菜を栽培



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 人が野菜を育てる「人」メインの考え方でなく、「野菜」自体が健康に生育する環境を人が整えるという「野菜(と自然)」を主体に物事を考え、35年前から有機農業に取り組む。
- **平成14年(2002年)に前身である「佐藤農園」として有機 J A S 認証を取得、平成25年(2015年)の法人化に伴い「さとう有機農園株式会社」として再取得。**

<販売について>

- 販売する全商品が有機 J A S 認証品。食の安全・安心が求められる時代の流れとともに販売量が増加。
- 有機栽培は特別な栽培でないと認識。生産性を上げることで**消費者が当たり前に手にとってもらえる価格設定**に努める。
- 関東、関西、名古屋の卸売業者、生協を中心に、百貨店、セレクトショップに販売。最近は業務用・加工用としてレストランなどにも販売。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
自然環境に基づいた栽培環境を整えることで野菜本来の抵抗性を発揮させる無農薬栽培を実現。
農業は有機 J A S 指定資材も含め一切使用せず、太陽熱消毒や人の手による捕殺で対応。
- 雑草対策
気候に応じた作物を栽培することで出来るだけ除草の手間を省く。草の発芽前に特注の草かきで「土を動かす」ことでより生えにくくする。
- 土づくり
植物由来のボカシ(大豆、米ぬか等)を中心に土づくり。
落ち葉を使用した踏み込み温床による育苗。

<苦労しているところ・現場の課題>

- 従業員の確保。パートではなく責任ある仕事を任せる正社員を雇用したい。

<今後の対応>

- 近隣で有機農業に取り組む農業者が、お互いに作物を分担し栽培することで安定供給が可能となる。そのような仲間を増やして連携・共存することで有機農業全体の発展につなげたい。



【お問合せ先】TEL.0978-32-0734

会社ホームページ <http://www.satoyuki-nouen.com/>

<基本情報>

所在地：大分県臼杵市

<農場概要>

- 野菜 7.8 ha、有機 J A S 認証を取得
- サラダ系野菜を中心に年間約 30 品目を生産



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 平成24年（2012年）に総合健康企業フォレストグループの一員として設立。「食」を介した健康への貢献を目指し、作物が持つ本来の味を引き出し、安全・安心な旬の野菜を消費者に届けるべく有機栽培のみに取り組んでいる。
- **平成26年（2014年）に有機 J A S 認証を取得。**
- **平成29年（2017年）に有機 J A S 小分け認証を取得。**

<販売について>

- 販売先は個人向けの定期宅配（全国）や臼杵市のふるさと納税返礼品のほか、デパート・大手量販店や個人経営のレストラン等にも拡大。また、商社を通じた海外輸出への取組も開始。
- ohana本舗が中心となり、**県内の有機農業者と共同出荷グループを構築**。システムを導入し生産出荷計画も一元的に管理出来る体制とし、大口需要や顧客ニーズに対応。
- 食品としての更なる安全性を追求し J G A P も取得。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
植物そのものが力をつける事が大事と考え育苗に力を入れている。育苗時の散水量を控え、土壌水分量を抑えることで強い苗に育っている。
- 雑草対策
耕起を繰り返して雑草の根を絶やす、加えて植え付け前の圃場では防草シート等により発生を抑制するなど、事前の作業を徹底。
- 土づくり
有機の里づくりを推進する臼杵市が開設した土づくりセンターで製造している完熟堆肥「うすき夢堆肥」を設立当初から使用。有機肥料による豊かな土壌づくりに取り組んでいる。

<苦労しているところ>

- 多品目栽培のための工程管理。効率的な作業、安定した出荷となるよう随時見直しを重ねている。

<現場の課題>

- 有機や特別栽培、慣行等の種々の農法があるが、生産方法の違いや定義が消費者に伝わっておらず付価値をつけた価格での販売につながっていない。有機農業発展の為に消費者への更なるアピールが必要。

<今後の対応>

- 共同出荷グループの強化に取り組み、大口販路拡大と経営安定、若手有機農業者の育成・定着に寄与する。



【お問合せ先】TEL.0974-24-3210

会社ホームページ <https://www.ohana-honpo.com/>

有機農業の取組 No.35 小松台農園（竹林諭一・竹林千尋）

令和3年2月現在

<基本情報>

所在地：大分県由布市

<農場概要>

- 野菜：1.9 ha
(有機JAS認証：1.5 ha、転換中：0.4 ha)
- フェンネル、白ネギほか多品目を生産



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 竹林諭一氏は東京都の食品スーパーに勤務していたが、販売されていているものと自らが食べたいものは違うと考えるようになり就農を決意。
- 結婚・帰郷し、農家研修等を重ねる中で有機農法に出会い、平成26年（2014年）から現在の地にて有機農業を始める。人にも野菜にも無理のない持続可能な循環型農業を実践している。
- **平成29年（2017年）に有機JAS認証（有機農産物）を取得。**

<販売について>

- 県内外の小売店や流通事業者のほか、インストア型の直売コーナー、インターネット等で販売。



【お問合せ先】TEL.097-582-1824

会社ホームページ <https://komatsudai-farm.jimdosite.com>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
緑肥を取り入れた輪作、牡蠣殻、ぼかし、良質な牛糞堆肥等を入れた土づくりを行うことで病虫害の発生を抑えるように努めている。
- 雑草対策
適期作業！！この一言に尽きる。生える前に取る！！
- 土づくり
病虫害対策と同じで、緑肥や牡蠣殻、ぼかし、良質な牛糞堆肥などを使って、極力、土に色々な微生物がいるような土づくりをしている。

<苦労している（した）ところ>

- 数十年前に梨団地として整備されたものの耕作放棄地となっていた農地を借り受け、自ら開墾し生産面積を拡大してきた。

<今後の対応>

- 地域資源の循環を軸にした持続可能な農業を目指し、真珠養殖後に廃棄されるアコヤガイの貝殻や粉末にした海藻を肥料として利用するSDGsの取組を始めており、続けていきたい。



<基本情報>

所在地：大分県宇佐市安心院町

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場14.75ha（ハウス3.45ha、露地11.3ha）
- ベビーリーフ、パクチー、リーフレタス、その他葉物野菜を生産
- 従業員：15名（代表含む社員3名、技能実習生4名、パート8名（増減有））



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 東日本大震災の影響により、有機ベビーリーフが不足していたため、ベビーリーフを栽培している茨城県の有機農業法人が技術提供する形で福岡県の有機農産物販売会社との共同で当社を設立。
- **平成26年（2014年）に有機JAS認証を取得。**

<販売について>

- 販売先の8割近くは、スーパー等小売店向け（ほぼ関東へ出荷。一部大分県内へ出荷）。
約2割程度は、仲卸へ販売（主に福岡県）。
- 令和2年当初は、コロナ渦により一時的に売上が落ち込んだが、その後、コロナ渦の巣ごもり需要により、売上が順調に回復し、今年は、前年と比較して売上が伸びた。
また、販売先のニーズに応じて商品構成の見直し（内容量を細分化）等を行ったことが売上増に貢献した。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
ベビーリーフは播種から収穫まで2週間程度（春～秋）と作期が短く、病害虫被害のリスクは少ない。パクチーは、作期が45日～60日程度（春～秋）のためアブラムシ等の虫の被害はある。
- 雑草対策
ほ場周辺は、全て草刈り機で除草。ハウス内は太陽熱処理や手刈りで雑草を除去する。露地の雑草は、耕耘作業及び草刈機等で除草する。
- 土づくり
赤土（粘土質）のため、成熟した土壌となるには時間がかかる。市内の酒造メーカーから焼酎粕を譲り受け、おからや米ぬか、牛ふん、鶏ふんを混ぜた堆肥（植物性原料主体）を自社で製造し、使用。

<苦労しているところ>

- 当初は、土壌が赤土で硬く、礫が多いため、耕耘作業が困難で、大きな石は手で拾いつつ作業を行った。



<今後の展開>

- 約100棟のハウスのうち令和元年竣工のハウスは、有機JAS取得済みであるものの、土壌が成熟しておらず、平成26年に竣工したハウスに比べ収量が劣るため、生産安定が当面の目標。

【お問合せ先】 TEL. 0978-58-3606

ホームページ： <https://ja-jp.facebook.com/ajimuof/>

<基本情報>

所在地：宮崎県綾町（有機農業条例制定の町）

<農場概要>

- 有機 J A S 圃場 約 10 畝
- 作付作物は、レタス、ブロッコリー、キャベツ、にんじん、かんしょ、水稻等 約 30 品目



<有機農業に取り組むきっかけ>

● 農薬や化学肥料を多量に使用する栽培に不安を感じていたとき、綾町の有機農業条例（自然生態系農業）が施行（昭和63年）され、また、同時期に土づくりの町の補助金（1万円／10畝）もあり有機に取り組む追風となった。

- **平成14年（2002年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 販売先は、大手及び地元スーパー、生協、百貨店、直販。
- 地域の仲間（取引先や友人等）と連携して、輸出や輸送コスト低減について検討中。
- 農園直営のカフェ「CAFE HOME」を開業し、有機野菜等を提供。
→（土日祭日営業。繁忙期は休み。当分の間休業中）



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策については、水張り防除や自家配合の堆肥（牛糞・馬糞）により硝酸態窒素を押さえる工夫など実施している。
- 除草対策は、元肥を充分に入れ、畝立てした後に圃場をビニールで覆い、太陽光による熱処理対策等により実施している。
- 綾町には、堆肥の品評会（コンクール）があり、日頃から良質の堆肥を活用した土づくりを行っている。

<現場の課題>

- 輸送価格の高騰により大都市圏など遠隔地への流通が厳しくなっている。
- 借地では、ドリフト問題等もありむやみに圃場拡大ができない。

<今後の展開>

- 貯蔵（冷凍貯蔵）の技術を併用して年間を通じて安定供給できるように取り組みたい。
- 有機農業者の横のつながりがいないため、県内の有機農業者の集まり（勉強会等）を開催したい。



【お問合せ先】TEL.0985-30-7050

<基本情報>

所在地：宮崎県児湯郡西米良村

<農場概要>

有機栽培：水稻：30a、たまねぎ：7a



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 西米良村に嫁いで就農したが、自らが潰瘍を患ったことで、安全・安心な農業に関心を持ち、取り組むようになった。
- 周辺に有機農業者がいないこともあり、農業専門誌「現代農業」や他県の有機農家の取組を参考にするなど、独学で学んだ。
- **平成19年（2007年）有機JAS認証を取得**



<販売について>

- 米とたまねぎは、宮崎市内の農産物販売所を中心に有機農産物として販売（2018年の出荷量は、玄米を中心（一部白米）に500Kg程度、たまねぎは250kg程度）。

【お問合せ先】

現在は、問い合わせに対応していません。

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

●（病虫害対策）

- ・ 35度の焼酎、酢（原液で使用）、ニンニク、トウガラシ、EM菌で作った溶液を栽培期間中2回葉面散布。

●（雑草対策）

- ・ 人手で行う。

●（土づくり等）

- ・ EM菌、米ぬか、油かすを使って「ぼかし」を作り、土作りを行い、併せてEM菌を培養した「活性液」を使用。
- ・ 水田へは、わらとボカシをすき込み秋処理する。
- ・ 水田のノロ（アオミドロ）対策は、EM菌を使用。



<苦労しているところ>

- ほ場が分散しており作業効率が悪い。

<現場の課題>

- 有機栽培農家は、除草剤を使用しないことから、使用頻度が高い管理機等の更新に対する助成が必要と思う。
西米良村では、特に高齢化や人手不足が大きな課題。
1村だけでは解決できないので、国・県・村・JAが一体となった対策を要望。

<今後の展開>

- 水田は全部で34a（全14枚）所有しているが、今後も30a位の作付を継続予定。

<基本情報>

所在地：宮崎県えびの市

<農場概要>

- 主食用米約8haのほか、オクラ、カボチャ、ピーマン、キャベツ、ほうれん草等の野菜を約4ha栽培。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 会長の本坊照夫氏が、昭和46年に就農した際、農薬使用が原因と思われる体調不良に陥った経験から、徐々に取組を進め、**昭和58年から本格的に開始。**

<販売について>

- 自宅に隣接する直売所「笑美農(えびの)市場」で、**自社生産の米・野菜のほか、味噌、漬物などの加工品も販売。**また、平成30年5月に、**6次産業化・地産地消法に基づく総合化事業計画の認定**を受け、玄米を利用したポン菓子、玄米コーヒーを開発・販売。
- 宮崎県内のスーパー等に、真空パックした米(商品名「笑顔米」)、生鮮野菜、加工品を納品。



<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
土づくりをしっかりと行うことが一番大切。土がよくなると植物体が強くなるため、大きな被害が発生することはない。
- 雑草対策
雑草がまだ小さいうちに、手押し型管理機による早めの畝間中耕を行っている。
- 土づくり
牛糞に、籾殻、海藻、木炭などを混合し、2か月間発酵させた中熟(中心温度40℃程度)堆肥を圃場に撒き、1か月程度土になじませる。

<現在の課題>

- 宮崎県内有機農業等に取り組んでいる農家が集まって、情報交換などを行う場がないこと。

<苦労しているところ>

- 自社農産物の販売先の確保のほか、除草作業(全作業時間の約半分を占める)、長年試行錯誤を重ねてきた土作り。

<今後の対応>

- 主食用米の販売を伸ばしたい。



【お問合せ先】TEL.0984-33-1610

会社ホームページ <https://motobo-farm.com/>

<基本情報>

所在地：宮崎県児湯郡新富町

<農場概要>

- 経営面積16ha（うち有機JAS及びASIAGAP認証取得5.5ha）
- 有機栽培品目：米、人参、馬鈴薯、ニンニク等
- 従業員：20名（代表役員含め5名、パート15名（増減有））



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 18歳の時、両親の後を継いで営農開始し、30年ほどは慣行栽培で米及びかんしょ等を生産。
このままの営農を継続するか、持続可能な農業を目指していくか悩んだ末、有機栽培を行うこととし、**平成20年（2008年）に有機JAS認証取得。**

<販売について>

- 有機JAS認定ほ場で生産した農産物は、ほぼ関東、関西へ出荷。**右の商品名「宮本」は代表者宮本氏から命名→**
- 当社で令和3年8月に有機米を台湾へ輸出したが、即完売。
これを機に、新富町が令和4年以降の台湾での新富町物産展の開催を検討している。



<飲食事業について>

- 有機農産物は全て関東・関西への出荷のため、「どこで買えるのか」との地元の要望があったところに、町が空き店舗での経営者を募集していたため応募し、「有機米農家おにぎり宮本」を開店。



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
米のいもち病とカメ虫防除には、有機JASで使用が認められたゼオライトを使用。
- 雑草対策
代かきを3回行い、その後、深水管理することで雑草を抑制。
冬作を行っていないほ場は、複数回耕耘し、次年度の雑草抑制。
- 土づくり
有機ほ場は全て水田。野菜と米の輪作（2年3作）体系で、稲わらをすき込むことにより、ほ場に有機物還元。
たい肥は自作でなく、有機JASで使用が認められた豚ぷんを施用。

<苦労したところ>

- 有機栽培を始めた頃は、指導者もおらず栽培技術も未熟で、収量・品質が安定せず収入が少なく、営農継続困難となった。
農業をやめようと考えていた頃、金融機関から融資を受けることが出来、営農を継続するうちに技術確立し、収入が安定し、現在に至る。



<農産物加工品の販売>

- 当社の有機米を使用した「お箸でほぐれるお餅」、「冷めても柔らかいお餅」などの商品開発を県内企業と共同で実施（老人福祉施設向け）。

【お問合せ先】TEL. 090-3609-6496

ホームページ：<https://www.organicfarmzero.com/>

<基本情報>

本部所在地：鹿児島県鹿児島市五ヶ別府町

<農場概要>

- 構成員：162戸（**有機JAS取得102戸**）、職員45名、パート30名
- 面積：275ha
- 栽培品目：約120品目（有機野菜、果樹、茶など）（2019年1月現在）



<有機農業に取り組むきっかけ>

大和田代表ご夫妻が大学在学中に公害問題に関心を持ったことをきっかけに有機農業の道に進み、1980年鹿児島市で就農し有機生産を開始。1984年に有機生産組合「かごしま有機生産組合」を10戸で設立。

<販売について>

- 直営店「地球畑」が県内に3店舗と有機野菜の食べ方の提案も兼ねた地球畑カフェ「草原をわたる船」



- 全体の3割は直営店舗で、その他の主な出荷先は「オイシックス・ラ・大地株式会社」、(株)ビオ・マーケットを通じた宅配やスーパーマーケットへの卸、コープ九州、その他の生協等。
- 毎年3~4回首都圏のマッチングフェアに参加。
- 2018年4月から**海外事業部で輸出事業をスタート**。
- 4~5年前から人参ジュース・りんご人参ジュースやごぼう茶・黒糖生姜湯を開発、**ベビーフードの開発**では「2018年鹿児島県特産品協会理事長賞」を受賞。

【お問合せ先】TEL. 099-282-6867
生産組合ホームページ <http://kofa.jp/>



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

生産体制強化のために品目部会及び地域毎の支部会、年2回の作付会議やフォーラム（講習会・分科会）を行ない、経営力向上と栽培技術の共有等を図っている。

- 病害虫対策
土着天敵の活用や適期の播種、コンパニオンプランツの活用。
- 雑草対策
太陽熱処理の活用、緑肥の活用。
- 土づくり
土壌分析に基づき、土壌の肥沃度を高めることを優先課題とし、近年は特に緑肥の利用に取り組む。



<苦労しているところ>

- 物流コストと資材コストの高騰。

<今後の対応>

- 有機農産物への国内ニーズと海外ニーズの高まりに対応した生産体制の構築と面積の拡大。

<特色ある活動>

- 新規就農者のための研修施設「**有機農業支援センター**」があり有機苗の供給も行っている。
- 毎年オーガニックフェスタ（毎年5万人の来場者）を開催。
- 2017年からネパールへの技術支援も開始。

<基本情報>

所在地：鹿児島県鹿児島市

<農場概要>

- 有機野菜等（にんじん、ごぼう、えだまめ、ばれいしょ等） 7 ha
- 有機 J A S 認定ほ場で農産物を生産
- 有機農産物にこだわった農園直営レストラン等を展開



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 昭和53年に父が病気をきっかけに有機農業を始め、平成17年に子供達（兄弟姉妹）が経営を引き継ぎ、平成25年から直営レストランを展開。



<販売について>

- 販売は「かごしま有機生産組合」や「NPO法人かごしま食の家族」※を中心に、物産館等へも出荷。
- 平成25年に自社農園野菜と有機農産物にこだわった直営レストラン「農園食堂森のかぞく」をオープン。
- 平成26年に法人化し、有機農産物や加工品の販売先を拡大。平成28年に直売所「森かぞストア」をオープン。
- 自社の人参を使用した「食べる人参ジュース」を委託製造し、直売所や県内外のこだわりを持った店舗で販売。

※「NPO法人かごしま食の家族」：平成22年に発足した有機農業者と消費者の会。現在、会員数300名。事務局はそのやま農園内。



【お問合せ先】 TEL :099-802-6100

農園ホームページ : <https://morikazo.com>

<病虫害対策・除草対策・土づくり>

- 病虫害対策
太陽熱利用土壌消毒を実施。
草堆肥等を利用した土づくりにより、健全な野菜等が育つ環境を整える。
- 雑草対策
太陽熱利用土壌消毒を夏場実施。この処理を行えない時期はマルチを使用。
手作りの除草機で、雑草が小さいうちに除草。
- 土づくり
畑を痩せさせないため年一作とし、他の期間は緑肥を栽培しほ場に還元。
主に落ち葉や刈り草を原料にした草堆肥を使用し、毎年、土壌分析により不足する成分(ミネラル等)の資材も投入。



<苦労しているところ>

- 栽培技術が確立出来ていないこと。

<今後の対応>

- 10月にオーガニックショップを併設した直営レストランを始良市にオープンし、販路拡大を目指す。
- 有機農業技術を確立させ、収穫量の安定と品質向上を目指す。

<基本情報>

所在地：鹿児島県日置市

にんじんの収穫体験



<農場概要>

- 2haの農場でにんじん、だいこん、かんしょ、さといもを生産中。
- 有機JAS認証を取得

<有機農業に取り組むきっかけ>

農薬等の影響で体調不良となる農家も少なくないことを聞いていたので有機農業に取り組むこととした。また、かごしま有機生産組合で有機農業の研修を受講し知識を得て就農。

平成29年（2017年）に有機JAS認証を取得。

<苦労しているところ>

さといもの畑栽培で水不足により商品化率が大幅（5割）低下。

降雨後に、無理してマルチ被覆したところ土が粘土状となり収穫不能となった。

これらの経験を翌年に生かし、ベテラン有機農家等からのアドバイスも参考にしながら改善策を考え対応。

<今後の対応>

有機農業が持続可能だと実証し、地域の皆さんへ恩返し。

ネット取引、ふるさと納税や直売を取り組み顧客の拡大などによる経営安定を図る。

畝間もマルチで被覆



成長後は畝間のマルチ除去



<病害虫対策・除草対策・土づくり>

● 病害虫対策

農薬は、一切使わず、土づくりをしっかりと行うことで病害虫の発生は減少。

線虫等対策に作物別に適した緑肥作物のすき込みや、収穫残渣を除去することで害虫の発生を防止。

土着天敵の働き（トップダウン効果）を生かすため、畦等を植生管理。

● 雑草対策

マルチ栽培を行っており、株元だけは手取り除草。

さといもは、背丈が高くなると雑草が繁茂しないので、それまでは畝間もマルチ被覆。

冬ににんじんは、透明マルチ被覆による太陽熱処理で雑草を抑制。

● 土づくり

ほ場を日々観察し、堆肥等の有機物の分解状況等を確認しながらの土づくりを実践。

観察の結果、現在、牛糞堆肥を徐々に減らし緑肥に移行中。

【お問合せ先】TEL. 080-3960-3622
フェイスブック：ジャラン農園 jarun Farm

<基本情報>

所在地：鹿児島県屋久島町

<農場概要>

- 有機 J A S 認証圃場面積：12ha（1枚の圃場面積10a程度）
- ばれいしょ 3ha、かんしょ 2ha、ウコン 2ha
- ウコンは、粉末に加工し販売（有機加工 J A S 認証を取得）

集落の象徴ともいえる美しい山「モッチョム岳」。

農園の名前にも、お借りしています。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 慣行栽培のばれいしょの価格が半値に下がった時期に、知人が栽培する有機栽培のばれいしょの価格は、下がらず取引されていた。このことから、経営の安定を図るため有機農業を始めようと決意。
- **平成15年（2003年）に有機 J A S 認証を取得。**

<販売について>

- 販売する全商品が有機 J A S 認証品。うち、約 9 割をかごしま有機生産組合へ出荷。
- 付加価値を付け収益向上を図るため、ウコンの粉末加工場を平成29年に整備し、**平成30年に有機加工食品 J A S 認証を取得。**
- 現在は、生ウコンと粉末の2パターンで販売しているが、令和2年度からは、粉末加工を主として販売予定。



【お問合せ先】モッチョム農園 代表 亀沢政親
Tel.0997-47-3006

<病害虫対策・除草対策・土づくり>

- 病害虫対策
ばれいしょは、疫病対策として、石灰ボルドーを使用
かんしょは、10倍希釈の食酢を使用。
- 雑草対策
ばれいしょは、2回の培土（土寄せ）で効果あり。
かんしょは、畦間を1mに設定し通行可能な小型トラクターによる除草を行うことで、労力軽減及び作業時間の短縮を図る。
- 土づくり
全品目で鶏糞を主に使用する他、雑草をすきこみ緑肥として活用。圃場は3年に1回の輪作（ばれいしょの後に、かんしょとウコンの作付）とし、12haのうち3分の1程度の圃場は、可能な限り2年間休ませる方法をとっている。その間、雑草を繁茂させ緑肥等にするなど、自然の力を活かした地力回復を実施。

<苦労しているところ>

- 圃場1枚の面積が10a程度と小さく、作業効率が非常に悪いこと。

<今後の対応>

- 新しい品目として、モリンガ（薬用作物の一種）の栽培を考えており、今後研究を重ね、将来的には加工場を活かし付加価値を付けた販売につなげて行きたい。

